

や大腸内視鏡検査（後述）を行います。

X線撮影では腸内にガスや便があるかどうかを調べ、大腸内視鏡検査では大腸メラノーシス（大腸黒皮症）があるかどうか、また、術後の腸管癒着症が実際にどんな状態なのかなどのほか、ポリープや大腸がんがあるかどうかも調べていきます。なお、便秘で苦しいときは浣腸や摘便（便をかき出すこと）などの処置もしてもらえます。

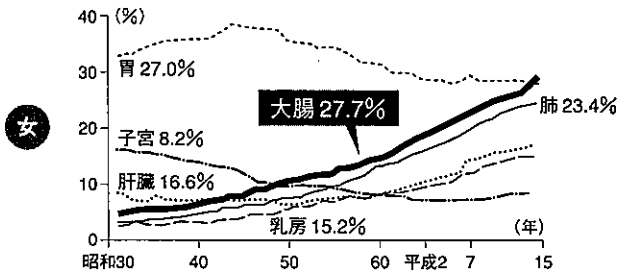
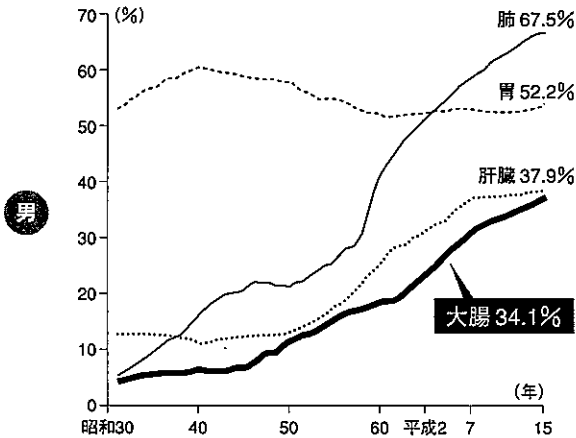
一度は受けたい大腸内視鏡検査

便秘や下剤依存症でやって来る患者さんに対して、私は必ず大腸内視鏡検査をお勧めしています。というのも、近年、大腸がんが非常に増加傾向にあります。2003年には、女性のがん死の中で1位となり、男性も4位となっています（次ページの表参照）。

そして、大腸がんと便秘はなんらかのかかわりがあると私は考えています。というのも、松島病院大腸肛門病センターで私は約10年間、2万件以上の検査を行ってきましたが、このうち、大腸がん、特に早期大腸がんが見つかった患者さんの自覚症状では、表に示すように、便秘を訴える人が20%程度認められました。これは決して多い数字ではありません。

しかし、早期大腸がんがでしやすい部位を見ると、約70%が肛門に近い直腸とS状

大腸がんでの死亡率が増加している



(厚生労働省 平成15年人口動態統計月報年計より)

早期大腸がんが起こりやすい部位

S状結腸	243人（46%）
直腸	125人（24%）
上行結腸	77人（15%）
横行結腸	50人（10%）
下行結腸	40人（8%）
盲腸	29人（6%）

（松島病院大腸肛門病センターにおいて著者調査。全例524人。複数回答あり）